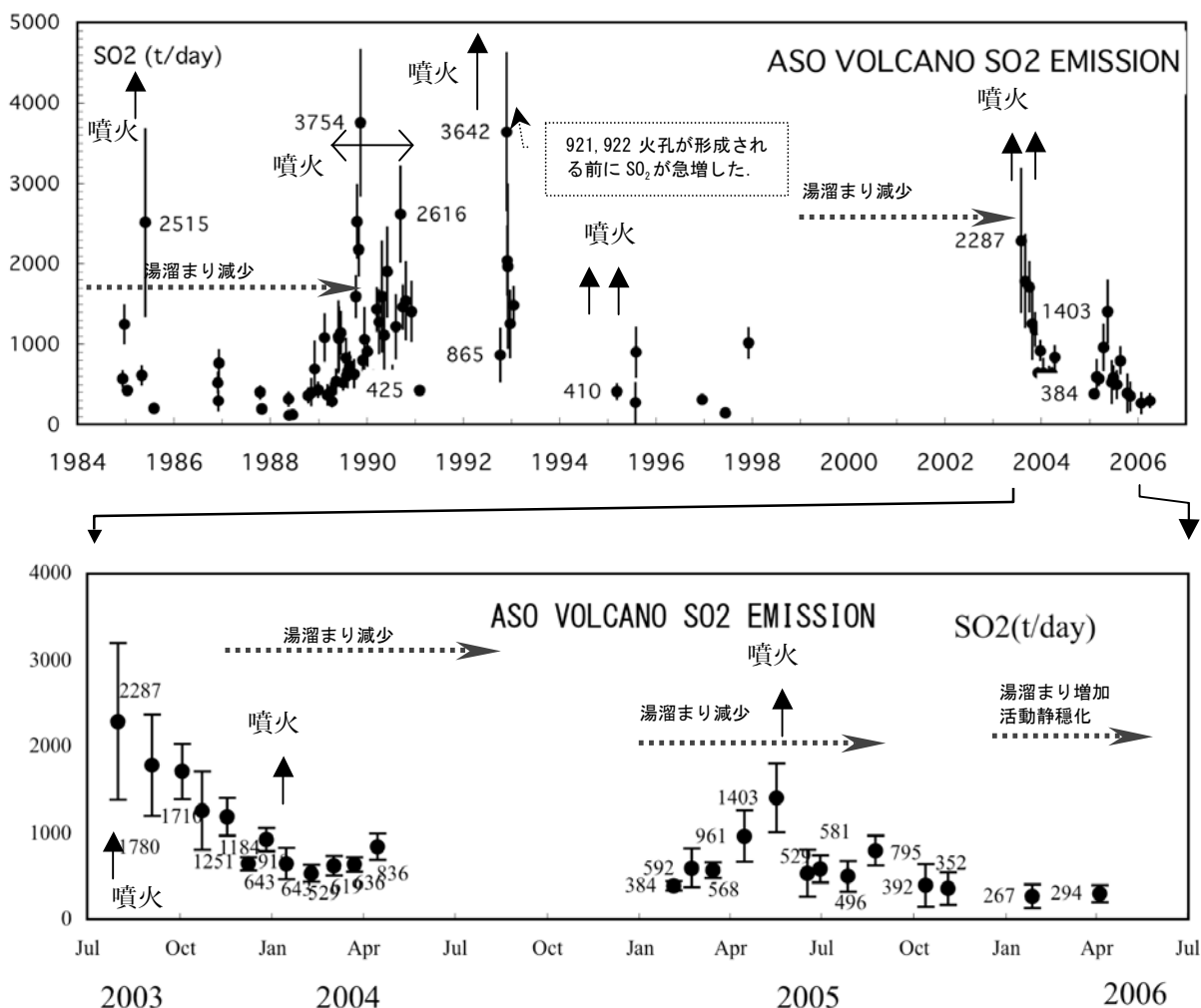


阿蘇火山の二酸化硫黄放出量



九州大学では COSPEC を使ったトラバース法により、1984 年から定期的に二酸化硫黄放出量を測定している。

阿蘇火山の二酸化硫黄放出量は、火山活動と密接に関連して変化している。噴火期間中は 2000 ton/day を超えるが、静穏期には 500 ton/day 以下である。また二酸化硫黄放出量の変化は、火山の表面活動に先行して現れることが多い。

2003 年 7 月 10 日の火山灰噴出以降、火山活動が活発になり、それに対応して 7 月 31 日には 2287±903 ton/day の高放出量が記録され、これは 1989 年の活動期や 1992 年 11 月の火孔の開孔前と同等レベルである。

その後は徐々に二酸化硫黄放出量は減少したが、2005 年 4 月 14 日の小規模な噴火に伴い一時的に増加した。さらにその後は 300~800 ton/day 台で推移し、2006 年 4 月 4 日の測定では 294 ± 95 ton/day と静穏期レベルの放出量となっている。

なお、2006 年 2 月に標準濃度セルの再検定を行って補正したため、これまでの報告の値より 1 割程度減少しているが、全国他グループの測定値と整合性がとれるようになった。